

「対人援助実践をレポートするさらなる一冊」

●主発表者（所属先）

小幡知史（樹の子クラブ）

●連名発表者（所属先）

二階堂哲（茨城県立美浦特別支援学校、長谷川〈錦織〉福子（茨城大学）・神山努（国立特別支援教育総合研究所）・渡辺修宏（国際医療福祉大学）

●内容

ご好評（？）を頂いた、第12回対人援助学会企画ワークショップ「対人援助実践をレポートするこの一冊」の続編にあたる本ワークショップは、対人援助にかかわりのある発表者らによる、さらなる「『推し』の本・文献」紹介を通して、対人援助実践で学んだこと・学びたいことを自由に談義しあい、それぞれの臨床実践の立ち位置の確認や、対人援助実践へのモチベーション向上を図ることを目的とします。前回の企画者3名から、さらなるプレゼンター2名にご賛同ご参加いただき、そして本を媒介に、対人援助実践のレポートを試みます！そのための具体的な手続きは、以下の通りとなっております。

◆1部：「私のさらなる一冊（実際はもっと多いかもしれません）」

さまざまな援助領域にかかわるプレゼンター5名が、自身の臨床の「支え」となった本や、臨床に迷った際の道標となった本、臨床を続ける糧となった本などを紹介します。

◆2部：プレゼンターカンファレンス

1部で紹介された本をモチーフに、それらから紡ぎ出される新たな学び・気づきについて、プレゼンターとオーディエンスの皆で自由気ままにトークします。

◆3部：オーディエンス参加型カンファレンス

オーディエンスから新たな文献（主に本）紹介を受け付けます。その上で、自由気ままなトークを続けるとともに、未来志向で「今、ぜひ読みたい本」や「今こそ対人援助をレポートする本」などについて、無責任に談義します。

以上に手続きにより、本ワークショップは、プレゼンターとオーディエンスにとってのそれぞれの対人援助のレポートを目指します。レポートとは、「明日からまた、気持ちよく、楽しく、効果的な援助実践に携わること」です。